



## 一般社団法人日本マスキリーニング学会 2021年度第2回理事会議事録

日 時：2022年3月31日（木）14：00～16：40

会 場：Web 開催

議 長：大浦敏博 理事長

出席者：石毛信之、伊藤哲哉、大浦敏博、大竹 明、窪田 満、九曜雅子、酒井好美、重松陽介、田崎隆二、但馬 剛、田島敏広、中村公俊、花井潤師、濱崎考史、平原史樹、南谷幹史、山口清次（以上理事）、福士 勝、松原洋一（以上監事）

議事：

### 1. 開会の辞（大浦 理事長）

- ・ 名誉会員の多田啓也先生、成澤邦明先生のご逝去を悼み、哀悼の意を表した後、2021年度の第2回理事会を開催する旨、理事長より挨拶があった。

### 2. 報告事項

#### 1) 総務報告（但馬 理事）

##### ① 会員現状報告

- ・ 正会員、特にA系（臨床・公衆衛生系）の会員が増加傾向にある。研修会に参加するためということも要因の一つと考えられる。

##### ② 役割分担

- ・ 委員会など組織は変更なし。

#### 2) 各委員会報告

##### ① 編集委員会（濱崎 理事）

- ・ 第31巻第3号を2月に発送した。原著3編、総説4編、検査室だより3編を掲載している。
- ・ EBSCO Information Services Japan（図書館や研究機関向けに、学術情報サービスをご提供している米国企業）より、学術論文データベース（EBSCOhost:エブスコホスト）に本会学会誌データを収録したい旨依頼があった。英語圏以外の雑誌をデータベースに取り込む作業を進めているとのこと。契約する場合には学会とライセンス契約を締結する必要がある。掲載は全文掲載となるが、学会の費用負担はなく、EBSCOhost が学会にロイヤリティ（数千円～数万円程度）を支払うなど報告があった。
- ・ 本件については理事会にて継続審議とする。

##### ② 渉外広報委員会（田島 理事）

- ・ International Journal of Neonatal Screening（IJNS）について、本年度はすでに3論文が掲載されているが、あと2編掲載されないと昨年度行ったアワードなどが実施できないとの連絡があった。そのため、評議員にメールで投稿依頼のご案内をする。

##### ③ 精度保証システム委員会（重松 理事）

- ・ NBS 精度管理合同委員会の中で活動中。新生児マスキリーニング事業の外部精度管理、内部精度管理は例年の内容をアップデートさせながら支援を行っている。昨年度からはWEBにデータをアップロードし、評価・チェックが出来るシステムとなっている。
- ・ 試験用のろ紙を作るための費用、WEBシステムのアプリの作成費用がかかるが、本事業の主体がNPO法人TMS普及協会から学会に移行していくことを考慮しつつ本事業を進める予定。

##### ④ 教育研修委員会（窪田 理事）

- ・2021年度後期研修会とし、基礎技術者（参加者18名）、専門技術者（参加者34名）、相談医（参加者67名）の3つのコースを設定し6回に渡りZoomにて開催した。相談医コースは今後相談医を目指す方も含めて募集をした。当日欠席した場合にはDropBox内のデータを視聴してもらい申告書の提出をもって参加として処理をした。
- ・アンケート結果は概ね好評であり、コースごとに参加する回を設定していたが、多数の方が設定以外の回も参加していることがわかった。
- ・今回の研修会の結果を考慮し、今後もオンライン開催を継続したいと考えている。また、現行のライブ形式のほかに、オンデマンド形式（事前収録したプレゼンビデオをホームページ上から配信するなど）も検討したい。本研修会は収支上黒字になったため、黒字分をオンデマンド形式での開催のために使うことも可能ではないかと考え、これを踏まえて次年度の開催方法について検討する。
- ・理事長より、医師の参加が多く会員増にも繋がるため研修会開催は有効であると考え、「相談医」という名称が不明瞭なので、別の名称を検討したらどうかという提案があり、次年度は変更する予定。

⑤倫理・COI委員会（平原 理事）

- ・利益相反の調査は2022年度も例年同様実施予定。5月頃調査用紙を発送し、6月頃に回収する。

⑥患者支援登録委員会（大竹 理事）

- ・MS対象疾患（17疾患）のJaSMIn登録患者の一覧では、先天性代謝異常症の登録は順調に増加している。内分泌疾患については項目の検討など、現在準備を進めている状況である。

⑦特殊ミルク委員会（大浦 理事長）

- ・中村理事が4月の小児科学会に応募した特殊ミルクに関する演題が教育講演に採択された。16日午前に発表する。

⑧保険・薬事委員会（窪田 理事）

- ・4月に診療報酬改正が実施されたが抑えられた改正であり、学術団体からの要望は反映されていない。ただし、小児医療全体に関してはプラスの改正になった。
- ・令和4年度診療報酬改正結果の検証を継続する。
- ・遺伝子検査の保険収載が増えたが、実施する検査施設が増えない。今後、大学や専門施設でも遺伝子検査を請け負っていく必要がある。

⑨将来計画委員会（但馬 理事）

- ・中核医師や自治体会員の入会を増やす策を検討したらという意見があったため、審議事項として提案した。

3) 技術部会報告（石毛 理事）

- ・3月10日に技術部会運営委員会を開催し、第40回研修会進捗状況、2022年度地区研修会開催予定、細則改定案などが報告された。
- ・審議事項として、郵便法改正後の影響、第41回研修会、統一ソフト改訂、NBS対象疾患拡大に関するワーキンググループなどについて検討した。
- ・理事長より、災害対策ワーキンググループの活動について、地区ごとに具体案を検討して欲しい、また併せて拡大スクリーニングに対するバックアップもお願いしたいという要望があった。

4) 第48回学術集会報告（南谷 学術集会長）

- ・有料参加者は317名であった。ハイブリッド開催のため、支出が増え財政的に厳しい状況であったが、千葉県から助成金（300万円）を獲得することが出来、黒字での決算となった。余剰金139,607円を学会に寄付した。

5) 第 49 回学術集会準備進捗状況 (濱崎 学術集会長)

- ・ 2022 年 8 月 26 日 (金)、27 日 (土) に大阪市中央公会堂にて開催予定。テーマは「子どもたちの健全やかな成長のために我々ができること」とした。
- ・ 学術集会時に開催する会議 (理事会・評議員会・技術部会など) は現地開催として会場を手配する。

6) その他

①日本小児科学会用語委員会委員交代 (但馬 理事)

- ・ 日本小児科学会の用語委員を本会から但馬剛理事に依頼していたが、任期が長くなったため、交代したい旨理事長に提案していた。委員会は週末に都内で開催することが多いため、鹿島田健一先生 (東京医科歯科大学) をお願いしたところ快諾を得た。4 月 1 日から交代する。

②各種推薦

- ・ 4 月以降に名誉会員・永年勤続表彰の推薦を依頼するので候補を検討しておいていただきたい。

3. 審議事項

1) 学会細則の改訂について (大浦 理事長)

- ・ 法人化により任意団体の会則を定款に移行した。定款に記載されていない項目「①役員選出、②会員総会、③名誉会員、功労者表彰などの選出」について細則案を作成した。
- ・ 改訂案の大きな変更箇所は下記のとおり。

①役員選出

- ・ 評議員の任期は 3 年であったが、理事同様 1 期 2 年とし、問題がなければ再任として 2 期 4 年とする。ただし、更新の際には 70 歳未満であることを条件とした。
- ・ 監事の選出は、理事会を監査する役目があることを踏まえ年齢を 75 歳未満と引き上げた。また、理事会で承認された場合、非会員であっても候補者とすることを認めるよう追記した。

②会員総会

- ・ 法人化に伴い、評議員会が社員総会となり、定款には会員総会に関する条文がないため、細則を作成した。今後、審議事項の承認は社員総会となるため、会員総会は報告事項のみとなる。任意団体時同様、会員総会にて会員からの意見聴取や各種表彰などを行う。

③名誉会員、功労者表彰、特別功労者表彰、永年勤続表彰選出

- ・ 任意団体時の内容について定款に合わせて文言の修正を行った。

④選挙制度最終案について

- ・ 選挙制度のスケジュールについて最終確認を行った。
- ・ 改訂案については、専門家に確認し定款との齟齬がないかなど、今後確認する予定。修正箇所などがあれば理事会終了後に連絡していただきたい。

2) 学会細則の改訂「技術部会関連」について (田崎 理事)

- ・ 学会の法人化に伴い、細則などの改訂案を作成した。改訂案の大きな変更箇所は下記のとおり。

①運営細則

- ・ 法人化に伴い、定款に合わせて文言を修正した。
- ・ 技術部会長・技術部会員の任期を理事の任期に合わせた。

②技術者研修制度細則

- ・ 基礎理論研修、基礎技術研修などの文言を修正した。
- ・ 上記修正に合わせて様式も変更した。
- ・ 研修制度自体の再検討を予定している。

3) 学会細則の改訂「認定部会関連」について (田崎 理事)

- ・学会の法人化に伴い、細則などの改訂案を作成した。改訂案の大きな変更箇所は下記のとおり。

①認定部会細則

- ・法人化に伴い、定款に合わせて文言を修正した。
  - ・認定資格手続き関連について修正を行った。
  - ・上記修正に合わせて様式も変更した。
- ・改定案については、専門家に確認し定款との齟齬がないかなど、今後確認する予定。修正箇所などがあれば理事会終了後に連絡していただきたい。

4) 2022 年度予算案補正について (田島 理事)

- ・2022 年度の補正予算案を提示し、承認された。補正項目は下記のとおり。

①収入

- ・実状に合わせて会費収入・広告収入・研修費収入を増額した。
- ・雑収入扱いとしていた学会誌販売を新規項目として追加した。
- ・任意団体時に特別会計としていた「統一ソフト販売収入」を新規項目として追加した。

②支出

- ・事務局委託費について 10 年以上値上げがなされていないため、月額 20 万円（税別）とする旨提案があり理事会にて承認された。

5) NBS 対象疾患拡大に向けた検査施設の体制整備 WG の進捗 (石毛 理事)

- ・3 月 10 日に開催した第 2 回技術部会運営委員会にて議論を行い、その後、技術系理事による検討を行った。
- ・3 月 23 日に開催した技術部会研修会資料作成のためのアンケート調査の際、新規 NBS 対象疾患の実施状況、検査法などの調査を行い、情報の共有を行った。
- ・今後の課題は下記のとおり。
  - ・技術部会研修会のアンケート調査を継続し、情報共有を行う。
  - ・学会として NBS 対象疾患拡大に向けた検査施設の体制整備のための支援の方法を検討する。
  - ・外部精度管理体制について構築する必要がある。現状では施設ごとに単位も異なっているなど、施設間での比較検討が難しい。
  - ・外部精度管理用ろ紙血検体の可能性について、当面の課題として遺伝子検査について先行的に検討をしており、花井理事より結果が報告された。
  - ・具体的な活動は始まっていないが、情報共有は行っている。一部の施設では内部精度管理用のろ紙血はないという報告があるので、検討をしていきたいと考えている。
- ・理事長より、構築していくうえで予算の検討が必要となる。現時点では予算の確定が難しいが、企業からの寄付も含めて考慮しつつ検討を続けてほしいとの意見があった。

6) 各検査施設の金曜日の検査体制調査について (石毛 理事)

- ・アンケート調査を実施し 36 施設中 33 施設からの回答があった。回答結果は下記のとおり。
  - ・多くの施設は金曜日の検査を実施していた。
  - ・金曜日に検査した結果は翌週の月または火曜日に確定している施設が全体の 4 割強であり、検体によって違う施設が 1 割強あった。
  - ・金曜日に確定した検査結果で即精査対象例があった場合の対応としては、当日中に産科医療機関に連絡する施設が 6 割弱あった。
  - ・画一的な流れにはなっていないが施設ごとに工夫して対応している傾向がみられた。
- ・アンケート結果を確認のうえ、今度どのような対応をしていければよいか、継続審議とする。

7) 郵便法改正後の問題点と今後の学会としての対応について (窪田 理事)

- ・今年 1 月から配送の遅れが生じている。郵便局の対応が改正前と変化しているとの報告があり、技術部会で 4 施設に対し調査を行った。
- ・採血日・受付日は 1 日ずれていることが判明した。また、CAH の判定日齢も北海道、富山は 1 日ずれている。東京の場合、改正前は水曜日がピークとなっていたが、改正後は水曜日が減少し他の曜日に移行している。
- ・上記結果では、単純に 1 日のずれが確認できた。ただし、都道府県や曜日ごとについては今後も引き続き調査をする予定。
- ・マスの検体だけは特別に早く扱ってほしいという要望書を出したら学会として提出したらどうかという提案に対し、理事長より要望書を出すためにはもう少し詳細が必要かと思われるとの意見があり、継続審議とする。

8) 学会員増加のための取り組み:自治体会員・学会認定制度など (但馬 理事)

- ・自治体会員に入っていない自治体について再度ご案内を発送する。同時に中核医師の先生方に個別にアプローチしていただくよう準備するという意見があったが、山口理事より自治体会員自体を廃止して、学会誌は全自治体に配布したらどうかという提案があり、理事長と将来計画委員会委員長の但馬理事とで検討する。
- ・学会認定制度は現時点での設置は難しいと思われる。

9) 2024 年度学術集会長について (大浦 理事長)

- ・2024 年度 (第 51 回) 学術集会長として、理事長より中村公俊理事の推薦があり、承認された。
- ・2025 年度以降について、まだ学術集会長を担当していない理事は検討をしていただきたい。
- ・2023 年度は第 50 回の記念大会となるため、企画について提案をしていただきたい。

10) その他 (大浦 理事長)

- ・ホモシスチン尿症のすり抜け例があることが判明した。指定難病にも加わったばかりであるので、技術部会でも検討課題とする。学会員がすり抜け例に遭遇した場合、本学会に報告してもらえないか検討したい。

4. 閉会の辞 (大浦 理事長)

- ・理事長より閉会の挨拶があり、理事会は終了した。

以上

2022 年 5 月 12 日

一般社団法人 日本マスキング学会

議長: 大浦 敏博



議事録署名: 福士 勝



議事録署名: 松原 洋一

